

テ ー マ

つながろう！地域で支えあう子育て支援の“わ”

<開催概要>

- 開催日 2009年12月5日(土) 10:00~16:00
- 会場 山口南総合センター (〒754-0892 山口市大字名田島 1218-1)
- 主催 財団法人こども未来財団・NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会
- 後援 厚生労働省・(社福)全国社会福祉協議会・山口県・山口市
- 協力 地域子育て支援拠点研修事業「山口開催」実行委員会・NPO 法人あっと
- 参加者数 合計 113名 (男性 6名 女性107名)
(行政 7名 NPO 任意団体 55名 他団体・企業 39名 その他 12名)

<開催趣旨>

平成19年度より、つどいの広場事業、地域子育て支援センター事業を統合し、児童館などのスペースも活用しながら、地域子育て支援拠点事業(ひろば型、センター型、児童館型)が新たに再編されました。そこで、行政とともに地域における子育て支援拠点間のネットワークを図りながら、地域子育て支援拠点の意義と役割を検証します。また、拠点スタッフ一人ひとりが日頃の活動を振り返り、見識を深め、スキルアップに寄与することを目的とします。

<プログラム趣旨>

山口県では、「やまぐち子育て文化の創造」を目指して、子育て文化創造条例(正式名:子育て文化の創造のための子育て支援・少子化対策の推進に関する条例)を19年度に制定しました。この条例の基本理念にある、「社会全体で広くすべての人を支援するために、地域などにおいて相互に子育てを支援すること」を子育て支援拠点から発信していくことを柱に、研修を実施します。山口県の風土や住みよさを活かし、世代を超えて受け継がれていく子育て文化のひとつとして、地域子育て支援拠点の目的と役割を今一度見つめなおす機会にしたいと考えています。

<開会挨拶>

主催者挨拶 財団法人こども未来財団 研修事業部 次長 岡林一枝さん

開催地挨拶 NPO 法人あっと代表理事 久保田美代さん



久保田 美代 さん



客席の様子

◆プログラム1 基調報告 10:15~10:45

「地域子育て支援拠点事業の概要と展望」

厚生労働省 雇用均等・児童家庭局総務課

少子化対策企画室 係長 池上栄志さん

「地域子育て支援事業について」各種データをもとにその概要と今後の展望などの話がありました。

地域子育て支援拠点事業の位置づけの確認、子育て中の親の負担感、相談先、地域子育て支援サービスの満足度等のアンケート調査の結果をもとに、現在の国の取り組み、22年度からの地域行動計画等の説明がありました。

また、父親も子育てができる働き方の実現、育児休業制度の見直し、安心こども基金等、最近の少子化対策の施策についての詳細な話を聞くことができました。行政の方から直接国の動向について聞くことができ、大変貴重な時間でした。

◆プログラム2 講演とディスカッション 10:45~12:00

講演

「地域子育て支援拠点について一緒に考えよう」

～ 地域子育て支援拠点とは？スタッフの役割とは？ ～

NPO 法人新座子育てネットワーク 坂本純子さん

「親子に寄り添い、拠点を起点に、地域を耕す」と題し、45分間のミニ講演がありました。

NPO 法人新座子育てネットワークの活動を通して、支援者の役割、拠点の概念、地域をデザインしていく、ガイドラインの作成など、現在、私達が行っている支援の指針となるべく方法についてもお話をいただきました。



坂本 純子 さん

ディスカッション 「地域子育て支援拠点について一緒に考えよう」
～ 地域子育て支援拠点とは？スタッフの役割とは？ ～

- | | |
|---------------------|--------|
| ◎ 山口市児童家庭課 | 東 洋光さん |
| ◎ 相愛大学子ども発達学科 | 中西利恵さん |
| ◎ NPO 法人新座子育てネットワーク | 坂本純子さん |



ミニ講演につづき、坂本さんの進行で各分科会のコーディネーターからそれぞれの目的についての説明がありました。

その後、坂本さんより「山口市は地域で子育てすることに対する関心度が高い地域だと思う」との話があり、それに対して、東さんから、当事者はそれを感じにくいと話がありました。

このことについて、この機会にぜひ、山口のよさを改めて感じてほしいという坂本さんからのメッセージをいただきました。

昼からの分科会に向けた話を直接コーディネーターから聞くことができ、心構えができた時間でした。

参加者の声

～アンケートより抜粋～

・私のひろばのスタッフミーティングでの話し合いの時にもあった内容に重なるところが多くあったので、再度考えたり、共感したりする時間となりました。

・支援拠点事業の大切さ、支援者のあり方について自分の振り返りができ、色々課題も見えてきました。分科会への期待も高まり、午後の部に意欲的に参加出来て良かったです。



東 洋光さん 坂本純子さん 中西利恵さん

◆プログラム3 分科会 13:00~15:00

第1分科会「地域子育て支援拠点事業の様々なかたち」

～ 様々な支援のかたちを知ることで自分たちの役割を知ろう ～

【コーディネーター】

山口市児童家庭課

東 洋光さん

【パネリスト】

- ◎ 勝山保育園地域子育て支援センター「つくしんぼの会」(下関市) 中川浩一さん
- ◎ たんぽぽ保育園(山口市) 川辺美智子さん
- ◎ つどいの広場梅光ほっとみーる(下関市) 今村方子さん

参加者の目的や学びたいこと～申込み書から抜粋～

子育て支援に関心があり、現在卒業論文でそれについて調査して学んでいます。行政の方の意見や子育て当事者の方などの様々な視点からの“子育て支援”に触れたいです。地域における子育てについて考えたいです。

コーディネーターの東さんより、いろいろな活動を知り、自分たちの活動へ活かす、またいろいろな形態の中で連携がとりにくい現状がある、ネットワークの形成の必要性を考える機会にしてほしい、と話がありました。

県内の子育て支援拠点施設の3つのかたちについて、パネリストの3人から事例報告がありました。



中川 浩一さん

中川さんからは、勝山保育園地域子育て支援センター「つくしんぼの会」の事業内容、施設の様子等報告があり、「子育て私援」個々への支援「子育て共援」つなぐ支える支援「子育て公援」子育てネットワークの三つの支える連鎖が大切と、支える支援についての重要性について話がありました。

川辺さんからは、「地域につながる子育ての輪を大きく」と題し子育て支援センターたんぽぽ保育園の取り組みについて、報告と保育園の日常の様子のDVD上映がありました。



気軽にいつでも誰とでも集まれる場が必要である。そこで変わる親子の見守りを通じて人と人とがつながることの安心や、それに寄り添うことの喜びを実感できた。今後も、子育て家庭に安心の場を提供したいとの話がありました。



今村 方子さん

今村さんからは、「孤立から個立」と題して梅光学院大学における、梅光多世代交流支援センターつどいの広場「梅光ほっとみーる」についての説明がありました。

親の風景の変化、大学力の活用、学生との交流等、様々な交流からの母親の自立への道などの話がありました。

ディスカッションでは、それぞれがぶつかった課題と乗り越えた方法について、それぞれの現場でのお話がありました。

中川さんは、地域の中で孤立した親子をひっぱり出すために、手を差し伸べたいという思いで、他団体との連携を図ったということでした。

川辺さんは、お母さんの精神不安について、臨床心理士、一時保育につなげて解決に導くため日常的な地域ネットの必要性を感じているという話がありました。

今村さんからは、学生とひろばの関わり方と方向性などの、それぞれの課題や解決策の話がありました。

活動を続けていく上で、ネットワークは重要であり、一方通行でなく共有する場の必要性がある。人とのつながりが財産になり、円滑な活動にもつながり、支援者や周りの親子にとってもプラスになっていることを共有認識しました。

東さんからは行政がそれらの活動や課題について研修、財政支援、ネットワークの投げかけなどの後援が必要だという話がありました。

参加者の声～アンケートより抜粋～

- ・ネットワークがなぜ存在していくのかという事を過程から知ることができました。まだ、様々な形で親の問題をフォローする必要性が感じられた。現在はもう一歩進み「子ども」が育った後の事を考える必要性を感じた。
- ・センター内部のみでなく、外の機関との連携の大切さ、必要性をお聞きでき、大変ありがたく思っています。



東 洋光さん

実行委員のコメント

子育て支援のさまざまなカタチがある中で、地域の中でのネットワークの必要性を改めて考えさせられました。

第2分科会「スタッフに求められる力」

～ワークショップでスタッフの役割について考えてみよう～

【コーディネーター】

相愛大学子ども発達学科 中西利恵さん

参加者の目的や学びたいこと～申込書から抜粋～

私は今年の9月からスタッフとして働いています。まだまだ手探りで「どうしてママ達はここに来ているのか？」
「私がしなければいけない事は何なのか？」疑問だらけです。少しでも疑問を確実なものにしたいです。

中西さんから、スタッフを支える学びの場にし、
普段の活動を見直してそれを文字化して整理し、
生産性のあるワークにしていきましょうと
第2分科会の趣旨について話がありました。



中西 利恵さん

5,6名ずつの5グループにわかれ、それぞれファシリテーターが入り、ワークショップを行いました。それぞれの立場での疑問や思いを発言し、それを皆で共有しディスカッションしました。2時間があっという間に過ぎ、各グループとも白熱した論議が行われていました。その後、各ファシリテーターがグループ討議について発表しました。

各グループの総評として中西先生より話がありました。

「支援活動は手間がかかるし、ぬかにくぎ・・・そう思うことも多々あるだろうけれど、欲張らず、一日に何か一つ良いことがあればいいのではないのでしょうか。

どうぞ懐を深く、広く、切れずに、同じ仲間がたくさんいますので明日からも頑張ってください。」と、また明日からの活動を前向きに続けていけるような励ましの言葉がありました。

参加者の声～アンケートより抜粋～

・とても楽しくてまだまだ聞きたいこと、言いたいことがありました。時間が足りませんでした。でも皆も同じような気持ちをもっていただくことが嬉しく、また頑張ろうと思いました。

・和やかに進められ、意見が出しやすかった。コーディネーターのおかげ、ありがとうございました。メンバーもとても前向きな意見を聞かせて下さった。各々の現場の努力がとても参考になった。県外の方とも交流でき貴重な機会となった。子育て支援は子育て文化の支援ということを再認識できた。

実行委員のコメント

地域子育て支援拠点に携わるスタッフが日頃の悩みを共有することができ、あらためてスタッフの役割を確認できた分科会となった。

第3分科会 「地域子育て支援拠点の可能性」
～子育て支援の現場から生まれた活動～

【コーディネーター】

NPO 法人新座子育てネットワーク

坂本純子さん

【パネリスト】

◎ センター型利用者からひろばスタッフへ
子育てつどいの広場「小郡ぽっぽ」(山口市)

坂本康恵さん

◎ 子育てネットワークから父親支援団体の活動へ
お父さん子育て支援グループ「オヤージュ」(山口市)

杉田則夫さん

◎ 子育て支援講座受講者から託児グループへ
託児グループ「ふぁふぁ」(山口市)

上野祐子さん

参加者の目的や学びたいこと～申込み書から抜粋～

父親も参加できる、参加したいと思う事業を企画したいと思っています。実際に実施しているところのアイデアを学びたい。他、訪問スタイルの支援事業等もありましたら実施例を伺いたいです。

はじめに、コーディネーターの坂本さんより、「この分科会では、支えていくことの大切さをシェアしましょう。そして、発展型の話を広げていけたらいいですね。」という話がありました。



坂本純子さん



坂本康恵さん

子育てつどいの広場「小郡ぽっぽ」の坂本さんは、「小郡ぽっぽ」に関わったきっかけや現在の活動について紹介されました。我が子が小さいころは、成長できる、共感できる相手がなかなかいなかったが、子育て支援センターを利用するうちに子どもも自分も友達と楽しく関わることができたとのこと。

現在の運営については、ママチームとばあばチームで役割分担し、企画運営をしていて、小郡ぽっぽが利用者さんにとって「居心地」がよい場所でありつつ、地域の子育て力を高めることにも重点を置いているなど、今後の楽しみな話を聞くことができました。

杉田さんからは、お父さん子育て支援グループ「オヤージュ」について結成のきっかけから話していただきました。活動の原点は、「自分たちが子育てを楽しみたい。男の子育てはカッコイイと街中に広げたい。」「自分自身、仕事以外の目標、楽しみ、新たな出会いがあった。時代がお父さんの子育てを求めている。」とお父さんの支援について大きな可能性を感じました。



杉田則夫さん



上野祐子さん

まとめとして、ひろばには多様に関われる環境作りが大切。地域とのつながりが、ひろばにもいい影響を与えている。そして、仲間同士の助け合いも必要。求められる事をして結果的に喜んでもらえたら嬉しいこと。そして、グループ継続の問題として、立ち上げ時は勢いがあるが、その後の発展が難しい。いろんな拠点が横つながりしていく中で横の連携を固めるとよいのではないか、など、立場が違う3つの団体でも共通の課題があることも認識しあうことができました。

上野さんからは、託児グループ「ふあふあ」の活動の経緯、活動内容についてお話がありました。つどいの広場での講習受講をきっかけに託児活動での子育て支援を始めました。他の託児グループとの交流や講座を受けて活動の幅を広げて行きたいと、とても前向きな話がありました。



参加者の声～アンケートより抜粋～

- ・個からきっかけをつかみ拠点活動へ、実践の様子がよくわかりました。ワークライフバランスをうまく利用され、意欲が伝わりました。学んだこと、能力が活かされ、生きがいに繋がると共感しました。
- ・地域とのつながり、パパとの関わり、託児。全てひろばで課題となっていることで、とても勉強になった。年輩の方から子供たちへつながりのあるひろばにしていきたいので、そのために努力していく。

実行委員のコメント

杉田さんの「可能性は無限大」という言葉などが印象に残り、元気をもらえる分科会となりました。これからいろいろな事を始める時に今日の言葉を思い出して頑張ろうと思ってほしいと思います。

◆プログラム4 全体会 15:10~16:00

【コーディネーター】

NPO 法人あっと

向井昌子さん

【報告者】

◎ 第1分科会

山口市児童家庭課

東 洋光さん

◎ 第2分科会

相愛大学子ども発達学科

中西利恵さん

◎ 第3分科会

NPO 法人新座子育てネットワーク

坂本純子さん

【アドバイザー】

岡山県総社市こども課

篠田絵里さん

各報告者から、分科会の報告がありました。

●第1分科会まとめ

最終目的は同じでも力を入れる分野は違う。
足並みをそろえて同じことをやる必要はない、
横でつながることが大切だと感じた。

●第2分科会まとめ

ひろば型、センター型で課題も違うが、各自が
それを書き出しディスカッションすることで
自己点検になった。

課題の違うひろば型、センター型でも、スタッフとして自己を振り返り見通しを立てるこ
とが求められる力は共通だと感じた。

●第3分科会まとめ

支援拠点から生まれた活動について発表のあった三つ、素晴らしい活動だった。
山口の子育て支援は他県のモデルとなるのでこれからは外へ出ていくことも必要。

●アドバイザーより

分科会開催にあたっては、各コーディネーターさんと実行委員で検討に検討を重ね、この
三つの特色のある視点で分科会を実施することができた。

今日感じた支援の“わ”を自分たちのところへ持ち帰り、明日からまた元気に支援活動が
できることを願っている。と締めくくりました。



関係者集合写真

参加者の声～アンケートより抜粋～

- ・全てに共通して“つながり”がとても大切だと感じました。それぞれの悩みも共通するものがあり、日々悩みと成長の毎日だと思います。
- ・研修は大事ですね。自分も自分が所属している団体についても、もう一度振り返る事ができて新しい気持ちでひろばに接することができます。
- ・各分科会での内容をまとめて話して頂き、ひろばに帰ってスタッフに伝えていきたいと思っています。